

地域密着型サービスの自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分だったらこのような介護を受けたいということイメージし、職員間で話し合いを行い理念を作り上げている	○ 職員が理念を把握して援助に取り組んでいく
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	私達が理念に基づいて介護を行っているか。朝夕のミーティングの場を利用して確認しながら実践している	○ 理念を共有し実践していく
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会等を利用して、四季の音で行われている日々の様子や援助の考え方、取り組み内容を話している	○ 地域の中で認められるグループホームになるように取り組んでいきたい
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	「四季の音」の前を散歩する地域の方々と挨拶をかわしている。近所の方が育てた野菜を頂き育て方を尋ねている	○ 地域の方々と交流を続けていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	推進チームの方が気軽に立ち寄って見える。四季の音で行われる。レクリエーションへ参加することもある	○ 地域の方が自由に訪問が出来るような開かれたグループホームになるように取り組んでいきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会等を利用して、四季の音で行われている日々の様子や援助の考え方、取り組み内容を話している	○	役立つことはないか職員が話し合いを行い取り組んでいきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、自己評価を全員で取り組みました。毎月定期的に研修会を行い、研修会で行われた内容を再度グループホームで再度研修を行うこともあります	○	常に改善策を考慮して行きたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	審議事項の内容に必ず現在の援助の内容について報告を行っている。また前回の運営推進会議の中で指摘をうけた点についてその後変化したことを必ず報告するようにしている	○	運営推進会議等でのアドバイスの意見を実践できるように取り組んでいきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難事例等、必要時には市担当職員または、他の職員へ相談を行うようにしている	○	市町村と連携を取りながら継続して行きたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ただいま、一人の利用者が成年後見人の手続きを行っている。なぜ必要なか手続きには何が必要かを随時職員へ報告を行い情報を共有している	○	研修がある時は、参加してスキルアップにつなげていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	朝夕のミーティングを利用し、利用者に対して言葉の虐待はないか、適切な態度で援助を行っているか職員同士で確認をするようにしている	○	尊厳の心を持ち高齢者に対して適切な援助を行いたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談室にて、重要事項説明書を利用して運営の方針を話している。重度化した時の方針、医療連携体制等の方針を家族が納得のいくまで説明している	○	今後も説明を丁寧に行い援助に対して同意を頂くように取組んでいきたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎朝、職員と利用者の話し合いの時間を設け利用者が、今日はどのように過ごしたいか、職員に対しての要望はないかを毎朝尋ねている	○	問題に対して早急に解決ができるように取組んでいく
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、メニュー表、援助内容、担当職員からのお知らせ等を主介護者へ郵送している。	○	今まで以上に普段の様子を家族へ伝えることができるように取組んでいきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月一回以上は家族が見えているので、その時間を利用して要望はないかを尋ねるようにしている	○	家族からの意見を受け止め次の援助につなげる取組みを行いたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕のミーティングを利用して職員がどのような考えで業務をおこなっているのかを把握するようにしている。必要時には個別に話をする機会を設けている	○	働きやすい職場作りを行いたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜間緊急時には、職員が勤務出来るような体制を配置、日中も精神状態が不安定になる時間に対して職員の配置が充実されるようにしている	○	利用者への援助が適切に行えるような職員を配置したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	離職することで、利用者に対して負担が起きないようにしている。やる気のある仕事の出来る職員が長く働くことが一番良いことだと十分承知している
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	職員を育てる努力は行っているが、簡単に辞めていく職員もいる。人間関係作りは困難である
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	他事業との交流を図り研修会に参加しネットワークを作っていきたい
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	自分の意見が言え、話を聞いてくれる職場の環境を作る
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	職員が努力していることを認める職場を作る

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えた利用者に対しては、相談室にて今何に一番困っているか、不安は何なのかを本人の話をよく聞くようにしている。在宅の介護支援専門員や包括支援センターの職員へ連絡を行い本人の様子を話在宅生活が継続できるように援助している	○	本人や家族の話に耳を傾け意見を援助に取り入れる
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談者に対しては、丁寧に介護保険の内容が理解できるように話、問題が解決できるように在宅の介護支援専門員、包括支援センターに引き継ぐようにしている。必要があれば市へ直接問い合わせることもある	○	時間を取り丁寧に話を聞く
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が抱えている不安や問題点を把握、その後適切なサービス等を紹介したり介護支援専門員、包括支援センターを紹介してつないでいる	○	相談の内容を確実に把握し、対応できない時は速やかに関連機関へ引き継ぐ
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の認知症通所介護を利用して頂く事で、馴染みの関係を築きグループホームの空きが出た時に問題なく入所できるようにしている	○	まずは見学をして頂き家族や本人の意向を重視してサービスの開始をおこなっていく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に対して慣れ合いにならない援助を心がけている。家族ではなく、家族的な雰囲気を作りお客様として接している	○	本人が望む生活ができるように、関わりのある援助を行っていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族が何を望んでいるか。何を期待しているかを考え一緒に出来る事が援助できるようにしている	○	家族とは連絡を密にとることで、サービス向上の取り組みになる
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との外出、外出が自由にできるように、また気軽にお越し頂くように関係を築いている	○	グループホームに入居したから今までの生活が終わるのではなく、今までの生活がグループホームで行われるような援助に取り組んでいく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの理髪、美容室、食事をしてきた店に職員と一緒にいく援助を月間の予定表に取り込んでいる	○	グループホームに入居したから今までの生活が終わるのではなく、今までの生活がグループホームで行われるような援助に取り組んでいく
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事、お茶の時間以外も出来るだけ、居間に集まって作業を行うことができるようなサービスの内容を月間行事の中に取り入れている	○	利用者同士がお互いに関わり合いが出来るように職員は利用者にも目を向け仲をとりもつ言葉をかけていく
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅生活を希望し退去した利用者に対して、機会がある時に、担当の介護支援専門員さんへ様子を尋ねる等の事を行っている	○	利用が無くなっても地域に住む一人の人と考えて人間関係を続けていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に援助の内容の評価を行い、利用者本人の援助が行われているかを検討し、出来たない所の援助が出来るように職員間で話し合いをしている	○	本人らしく生活ができるように、望む生活が提供できるように援助していく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方を、生活環境を記入した書類がいつでも見ることができるよう、職員が情報を共有することができるようにしている	○	定期的に生活歴や本人の馴染みの物は何か、等を考えて援助を行っていく
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の過ごし方を記入した援助計画があり、その援助内容を職員が把握して援助を行っている。一日の援助が適切に行われているかの確認は、朝夕のミーティング等で確認が行われている	○	一日どの様な過ごし方を行ったか報告することで、適切な援助が出来ているかの把握を今まで通りおこなっていく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人にどのような生活を望んでいるのかを尋ね介護計画に取り入れている。適切な援助が行われているかは、定期的なモニタリングを行うことや朝夕のミーティング等で確認を行っている	○	全職員が、利用者の援助計画を把握し満足のいく提供を行う
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険更新時、病状が変化、サービス内容を変更した方が良いと判断した時は職員間でサービス担当者会議を行い新たな計画を立てている	○	本人が満足の行く本人らしい援助計画を行う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作り、日々の様子を記録している。必要がある時は、家族にも目を通して頂く事は出来る。記録を行うことで、援助計画に反映することができる	○	毎日、本人の状態を個別記録として記入している
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空室を待っている待機利用者または、他の利用者からの要望等がある時は、短期利用生活介護の利用が受けられる体制が出来ている	○	本人や不安なく生活できるように援助を行う
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会へ参加される地域の方々を中心にお互いに協力できる事を見つけ協力いただける所は協力いただいている	○	地域資源が利用できる援助を行う
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護支援専門員に短期利用生活介護の利用が出来ることを情報提供している。医療保険のデイケアを週に3回利用している利用者や手話教室に通っている利用者もいる	○	他事業所との連携を図り援助を行う
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、成年後見制度が必要な利用者の申請を行っている	○	必要があれば、情報の提供を行っていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>かかりつけ医との連携を図る。病状に変化がある時は、次の医療機関の情報提供を行う</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>病状の変化にすぐに対応できるように看護師と連携を行う</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>利用者の健康状態を看護師に報告し援助に当たっていく</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>職員と病院関係者が連携を図り行っていく</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>不安がないように対応を行っていく</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>医療機関と連携を図る取り組みを行いたいと思う</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホーム利用中の情報を次の施設へ提供している。	○	入居したから今までと違う生活ではなく今までと同じ生活ができる取り組みを行いたい
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝夕のミーティング時に、職員が一日の利用者の様子を報告する。その時に適切な援助が行われているか、尊厳を持って接しているかという事を確認している	○	尊厳ある生活ができるように援助に取り組みたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分の思いを言える人と言えない人がいるため職員は、本人がどのような生活をしてきたか、好きな食べ物は何かなど家族に尋ねたり、本人の表情を見ながら代弁者になることができるように援助している。	○	顔色や表情をみて何を感じているのかがわかるような職員になりたい
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはある。その人に合わせた一日の援助は個別に設けている。援助の内容は、家族や職員と話し合いを行って決めている。	○	本人をよく知ることを続けていきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理容・美容を利用している。家族と外出する時など店や行事に合わせた装いで外出している	○	本人らしく生活ができるように援助に取り組む

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	好きなメニューを食事の中に取り入れる
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	今後も希望する時は、嗜好品がいつでも提供できるように取り組む
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	一人ひとりの排泄パターンに合わせた援助を行う
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	夜間に入浴の希望があったら入浴ができるように取組んでいきたい
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	基本的に自由に過ごすことができるように今後も取組んでいきたい
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	ストレスのない生活を送って頂くように取組んでいきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に行き、買い物を行っている。外部から来るパン屋、ヤクルトの業者が見えた時は自分で品物を選び自分で支払いができる援助をしている	○	本人のためになるような現金の使用の仕方が出来るように取組んでいきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と一緒に散歩を行い季節感を味わう。また庭に出て花に水をあげたりする。	○	今まで通り個別援助重視に取り組んでいきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人一人の利用者が月の予定を決めて買い物、図書館、自宅等に出かける。	○	旅行、温泉など必要な方に取り組んでいきたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の中には、携帯電話を持っている利用者もいる。利用者が気軽に電話をかけられるようにしている。	○	家族関係を断ち切らない様な援助を行っていく
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が見えて利用者と一緒に部屋で食事をすることもある。夜でもいつでも訪問できるようにしている。	○	いつでも立ち寄ることができるグループホームとして認められるように取組んでいきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	援助する中の基本的な考え方は、自分がされて嫌なことは、利用者に行わないという考えを持つように職員へは話している	○	利用者に権限がある事を知り、権限を認める援助に取り組んでいきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	自由に外に出ることができる環境を提供していきたい
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	一人ひとりの利用者に対して目を向けるような援助を行っていく
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	グループホーム内の整理整頓を行う
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	ヒヤリハット報告を確実に言い、改善策を確実に取り組む援助を行う
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	緊急通報装置を職員全員が出来るように、また消火器の使用の仕方を知っている
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	緊急の連絡網を作成しすぐに駆けつけることができる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	現在は落ち着いた生活をしているが、今後病状が悪化した時、考えられるリスクを機会がある時、家族に説明をしている。また、普段の生活を送る時、家族に協力の依頼することで、本人の状態を知って頂くようにしている。	○	制御することのない援助を行う
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日勤勤務の職員は、体調に注意して対応を行っている。異変時は、看護師へ連絡し指示を受ける。夜勤者へ負担をかけない様に職員配置の多い日勤での対応を行っている。	○	日中、本人の顔色、普段と変わらないか等目を向け一日の様子が記録できるようにしている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに薬の処方箋を閉じていつでも見ることができるようになっている	○	薬の変更は全職員が解るように申し送り等の利用を行う
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	必要な利用者に対して、出来るだけ薬に頼る事がないように、食物で対応を行う（牛乳、ヨーグルト等）ようにしている	○	リズムのある生活ができるように記録を行い、変化時はすぐに対応を行う
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行うように声をかけている。援助の必要な人に対しては、職員が全介助で行っている。口腔の状態を記入している	○	今まで通り毎食後の口腔援助、定期的な歯科受診を行う
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量、水分量の記録を一人ひとり行っている	○	日々の記録の中には水分量の記録が出来るようになってきている。今まで通り記入を行う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、うがいを確実におこなっている。手を拭くタオルは、「一人に一枚」を徹底し毎回タオルを交換している	○	職員は、研修会等に参加し向上に努める
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒、冷蔵庫、口腔時のコップ等曜日を決めてハイター消毒を行っている。	○	今まで以上に整理整頓、清潔に努める
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を植え、散歩をする地域の方々との話題になったり、玄関を開けて気軽に立ち寄ることができるようになっている	○	気軽に立ち寄れる、地域に認められる。取り組みを行う
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に入りきりにならない様に、共用の部屋は、花を飾ったり自由に好きなテレビ番組を見ることができる。座り心地のよい椅子も置いている	○	居心地のよい環境を提供する
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのよい明るい共用の部屋で、利用者が思い思いの時間を過ごしている。	○	好きな場所に座り自由に過ごして頂く

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は自宅と変わらない様に自宅で使用していた 馴染みの品物を持参して居心地のよい部屋にして いる</p>	○	<p>自宅で使用していた、品物で安心のある生活が送 れる環境を提供する</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている</p>	<p>居室には換気扇があり、新鮮な空気を取り込んで いる。温度の調整もこまめにおこなっている</p>	○	<p>窓を開けて清潔感あふれる居室の環境を作る</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している</p>	<p>ローカ、トイレに手すりを付けている。必要な利 用者は手すりを利用している。</p>	○	<p>自由に動く事の出来る環境を提供する</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している</p>	<p>本人の出来ることを見つけ援助の中にとり入れる ように援助計画を立てている。勉強会の時確実に 援助が行われているか。また朝夕のミーテイング を利用し援助の確認を行っている</p>	○	<p>本人らしく自由に生活ができる</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭に花を植えたり玄関先に椅子を出して季節感を 味わっている。また畑まで散歩に行っている</p>	○	<p>建物以外から自由に出れる環境を提供していき たい</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 個別の援助を行うことを目標にしている。
- ・ 季節感を味わうことができるような環境を提供している。
- ・ デイサービスの職員はグループホームの入居者の事を知り気軽に声を掛け職員が異動になっても利用者に精神的負担がかからない様に援助に取り組んでいる